

弥生時代の池上曽根遺跡の住居がモチーフ

JR 阪和線「和泉府中」駅の橋上化及び自由通路工事が完了

JR 阪和線「和泉府中」駅の橋上化及び自由通路工事が完成し、5月24日に式典が行われ、翌25日から使用開始された。

駅のデザインは弥生時代の池上曽根遺跡の住居をモチーフにしている。和泉市は古代の遺跡が多く、市民にも親しみやすい外観で、和泉市の玄関にふさわしいデザインとなっていると思う。



駅の内部は、バリアフリーに対応し、エスカレータ、エレベータも設置され、利用客にとっては利便性が向上したという感じである。以前の駅舎に比べると広く明るくなっており、全体的にモダンなイメージとなっている。

この和泉府中駅の橋上化及び自由通路の完成は、既に完成した市街地再開発事業に伴い計画されていたものである。弊社は平成12年ごろからコンサルタントとして当該再開発事業に携わってきた。それ以前から和泉府中駅前の再開発は大きな課題として市が取り組んできたが、平成15年に事業協力者の選定を経てからは、平成17年に都市計画と事業計画の変更、平成19年管理処分計画認可、特定建築者公募と、順調に事業が進捗した。そして平成23年3月に再開発ビルが完成し、「フューラル和泉」と命名された。

再開発ビルは、商業公益棟にスーパー（コノミヤ）、市立図書館、フィットネスクラブ（コナミ）のほか、ドラッグストア等の生活関連施設が入っており、駐車場棟及び住宅棟からなっている。現在、駅と再開発ビル等をつなぐデッキが一体となっており、東側の駅前広場が整備中で平成26年春に完成するとのことである。

再開発に携わった者としては、計画中の図面や書類からは想像できない実物の迫力を実感するとともに、再開発事業は完成してからが本当に真価が問われるということも肝に銘じて、この経験を今後の仕事に活かして生きたいと思う。

(2013/6/28 再開発部)

